

がんピアサポート公開研修会結果報告

2011年12月27日

山梨がんピアサポート希望（のぞみ）の会

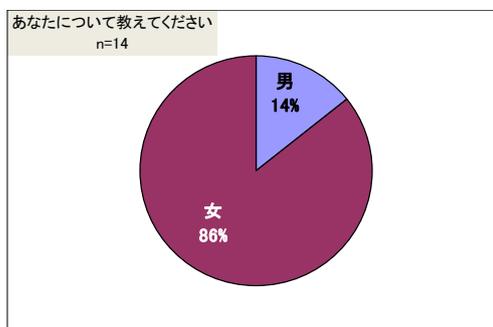
代表 若尾直子

はじめに

当会は、2011年に山梨県の主催により行われた「がんのピアサポート研修」を終了したものを中心として自主的にがんのピアサポートを実施している団体である。2012年5月より、甲府駅近くの事務所「花水木」（甲府市朝日2-16-19）で毎週火曜日午後1時より4時までがんのピアサポートを無料で行っている。活動初期より毎月定例会と振り返りを行い、活動のブラッシュアップを実施しているが、モチベーションや活動の方向性を模索しつつピアサポートのスキルアップのため外部講師を招いての公開研修会を行った。講師は国立がん研究センターがん対策情報センターでがんの情報提供や相談支援に関する調査研究を中心的に行っている高山智子氏をお招きした。研修への参加は23名（一般8名、行政2名、当会メンバー13名）で、アンケートへの回答数は14名（すべて有効回答数）だった。アンケート結果を含め、下記に研修会のまとめを報告する。

アンケート結果

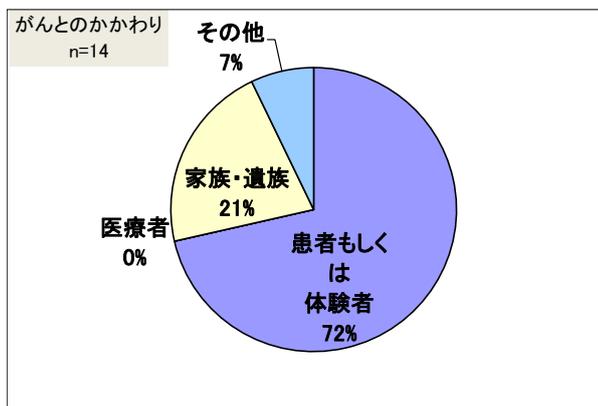
1、あなたについて教えてください。



アンケートに答えた参加者14名のうち、男性は2名だった。

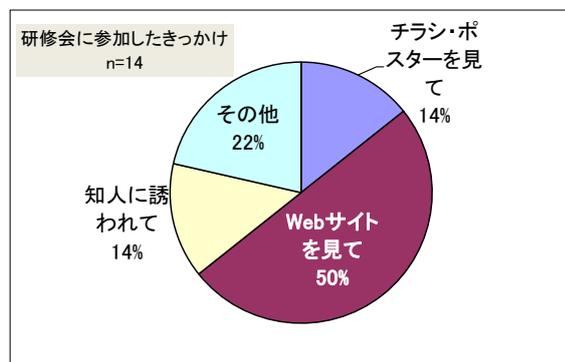
2、あなたのがんとのかかわりについて教えてください。

がんとのかかわりを聞いたところ、10名が患者もしくは体験者だった。



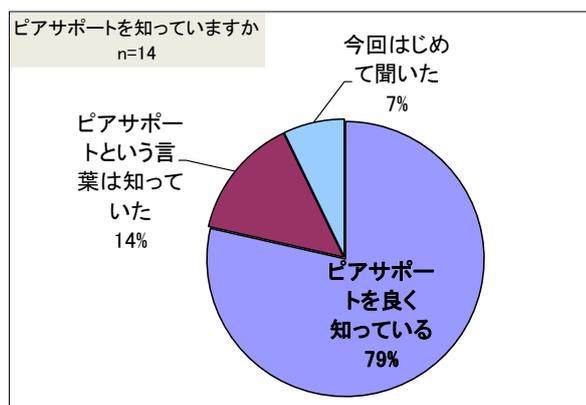
3、今回の研修会を何で知りましたか。

本研修会に参加したきっかけを聞いたところ、ホームページを見ての参加が7名いた。

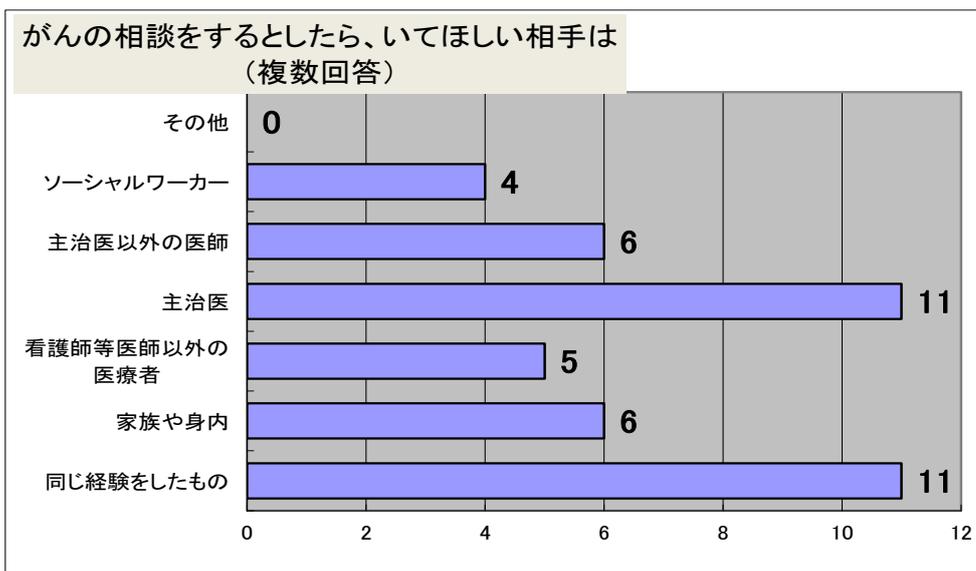


4、ピアサポートについてお尋ねします。

ピアサポートについての認識をたずねたところ。「初めて聞いた」と答えた人が1名いた。11名は「よく知っている」と答えている。



5、がんの相談をしたら、いてほしい相手は誰ですか。(当てはまるものすべて)
複数回答で尋ねたところ、主治医とともに、「同じ体験をした者」が同数で11名いた。



8、本日の研修会について感想やご意見をお聞かせください。

- ・医療者としてピアサポートに関する全体像を話してくれたので参考になった
- ・カタカナ語が多く感じた
- ・他県や外国のピアサポートのあり方を知ることが出来てよかった
- ・他県の活動内容が非常に参考になった。オーストラリアのピアマッチングは素晴らしい
- ・復習を含め、定期的を開催してほしい
- ・2時間ありがとうございました。ペーパーがあると理解しやすかった
- ・PPTをゆっくり見たかった。資料があったらよかった。資料をいただけるのはうれしい
- ・勉強になりました。ありがとうございます。
- ・山梨県の体制の遅れを痛感した。サポーターが5年以内が適しているということにはショックを感じた。5年以上経っているサポーターに、最新の治療法など勉強できる機会があるといい。山梨県は他県にない特性をもてると思う。医局等に縛られず医療者が多く集まれるピアサポートやがんサロンであることが希望。

9、今後期待するピアサポート研修会での内容

- ・他県の好事例
- ・外部講師の話をもた聞きたい。また、ピアサポート実践者の話を聞いてみたい
- ・がんに対して不安に思っている人は多い。体験談などを多くの人に伝える活動を期待する
- ・他県の代表者にその県の活動内容を紹介してもらいたい

質問とは別に、下記のコメントが記されていた。

- 病院内でのピアサポートをしてほしい

まとめと考察

参加者23名、アンケート協力者14名という小規模の研修会であったが、がんのピアサポートに関する外部講師による研修会は、医療者が考える「患者が求めるであろうピアサポートとは」という視点でピアサポートの役割と、他国・他県の好事例をお話いただき大変参考になった。山梨県でがんのピアサポートを行う上での目的を共有することの重要性や、医療とは別の視点でのサポートをどのような方法で実践していくかをあらためて考えるきっかけをいただいた。また、他国・他県の好事例は具体的で多くの参加者に好評だった。アンケートではがんの相談をするうえで、相談相手として主治医と同じ比重で当事者を対象としていることが明らかになり、ピアサポートの重要性があらためて明確になった。また、相談しにくい対象として家族や身内が挙げられた。ここに「外部で相談できるがんのピアサポートが必要」と言われる所以があるように思えた。今後、相談場所の検討も含め、「がんを知り、がんと向き合い、がんを負けない山梨県の構築」のためにも、より良い相談体制の充実が欠かせないと考察された。